

疾患ごとの治癒率の経年的変化

1

集計条件について

- データの対象期間は平成21年から平成25年の退院患者調査(7月から12月の6ヶ月データ)
- その中で、経年変化を見るために、平成21年から平成25年まで対応するICD10コードの組換えの行われていないコードのみ分析の対象とした(集計1、2)。

2

集計1： 治癒率低下に影響した症例について

集計1：

平成25年度と平成21年度退院患者調査を比較し、対象全症例において治癒率が低下しており、かつ全体の低下への影響が大きいと考えられる、上位5コードを抽出（対象医療機関は平成21年度から平成25年度まで通年参加している医療機関）

集計対象

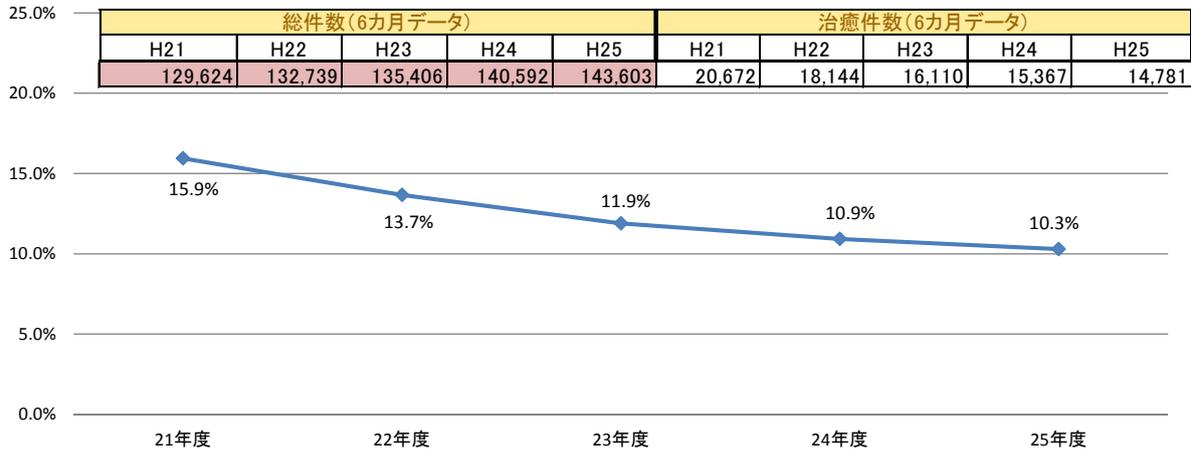
DPC6	傷病名
020110	白内障、水晶体の疾患
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎
060160	鼠径ヘルニア
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患
120260	分娩の異常

集計イメージ

平成21年度			平成25年度			治癒割合の差
上6桁	治癒件数	全数に対する治癒割合	上6桁	治癒件数	全数に対する治癒割合	
010010	100	0.10%	010010	150	0.075%	0.025%
010020	30	0.03%	010020	20	0.010%	0.020%
.
.
180060	500	0.50%	180060	300	0.150%	0.350%
合計	20000			15000		
対象症例合計	100000			200000		
年度全体の治癒率	20%			7.5%		

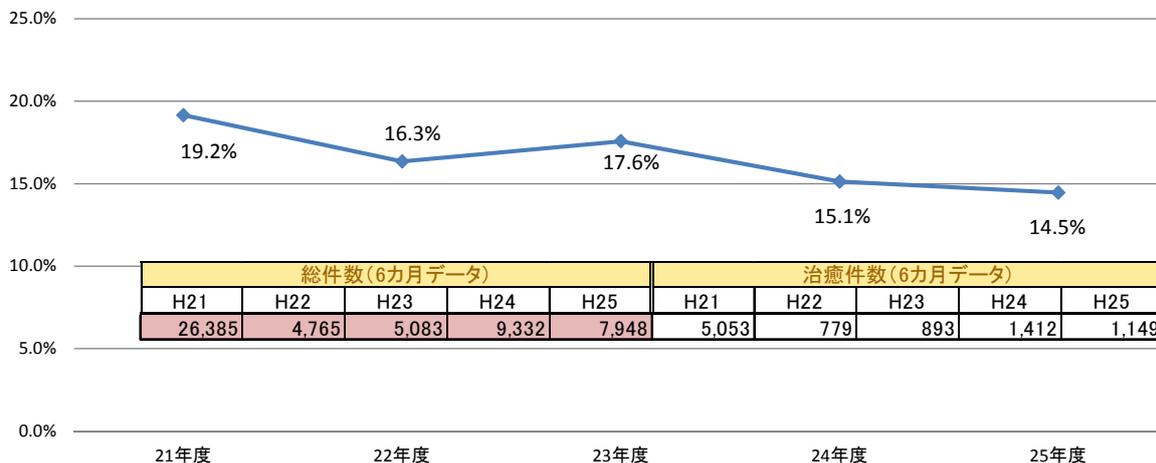
この中で減少が大きいもの
↓
上位5つのコードを抽出し、
影響の大きい症例として分析

020110 白内障、水晶体の疾患



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
020110	白内障、水晶体の疾患	H25\$ 老人性白内障
		H260 乳児、若年および初老期白内障
		H261 外傷性白内障
		H262 併発白内障
		H263 薬物誘発性白内障
		H264 後発白内障
		H268 その他の明示された白内障
		H269 白内障、詳細不明
		H27\$ 水晶体のその他の障害
		H28\$ 他に分類される疾患における白内障および水晶体のその他の障害
		Q12\$ 先天(性)水晶体奇形

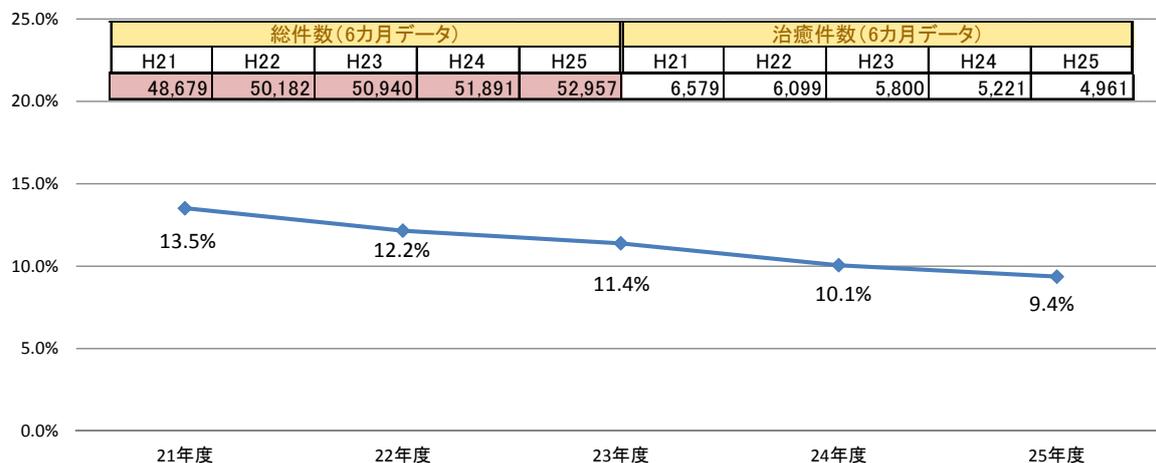
040070 インフルエンザ、ウイルス性肺炎



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	J10\$ インフルエンザウイルスが分離されたインフルエンザ
		J11\$ インフルエンザ、インフルエンザウイルスに分離されないもの
		J12\$ ウイルス肺炎、他に分類されないもの

5

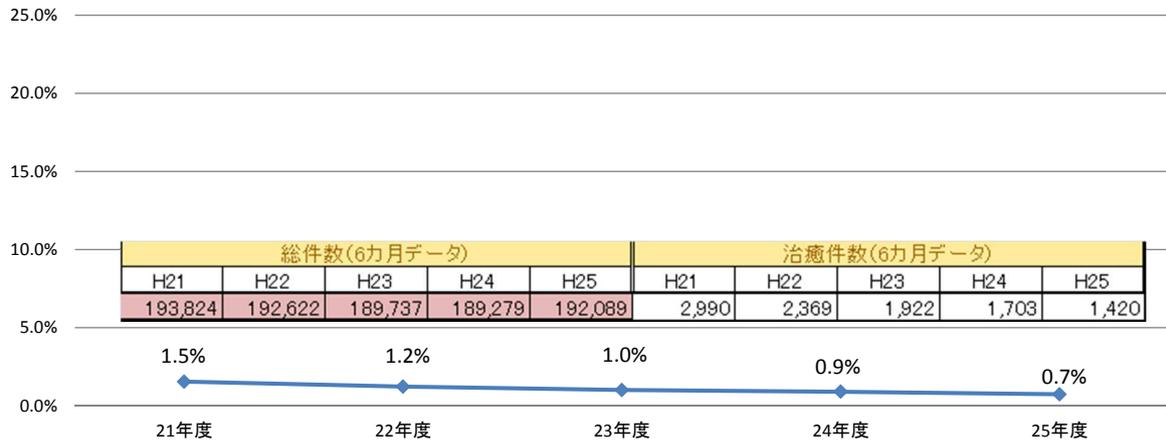
060160 単径ヘルニア



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
060160	単径ヘルニア	K40\$ そけい<単径>ヘルニア

6

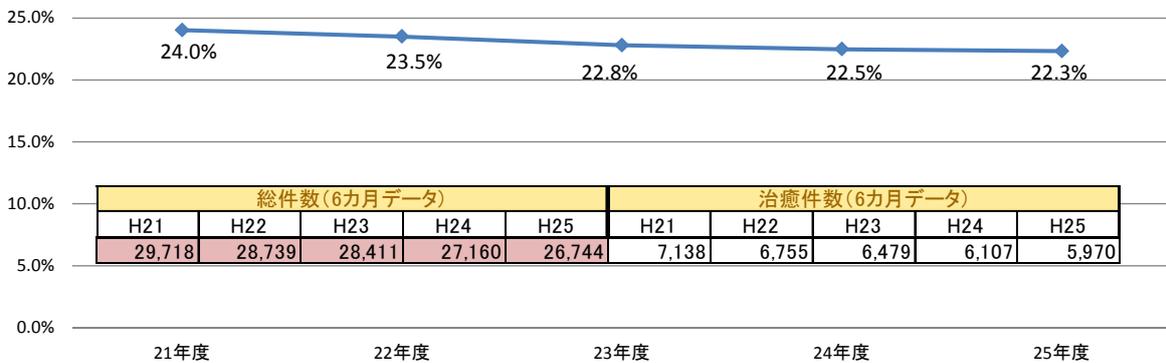
050050 狭心症、慢性虚血性心疾患



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	I20\$ 狭心症 I25\$ 慢性虚血性心疾患

7

120260 分娩の異常



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
120260	分娩の異常	O61\$ 分娩誘発の不成功
		O62\$ 娩出力の異常
		O63\$ 遷延分娩
		O64\$ 胎位異常および胎向異常による分娩停止
		O65\$ 母体の骨盤異常による分娩停止
		O66\$ その他の分娩停止
		O67\$ 分娩時出血を合併する分娩, 他に分類されないもの
		O68\$ 胎児ストレス[仮死<ジストレス>]を合併する分娩
		O69\$ 臍帯合併症を合併する分娩
		O70\$ 分娩における会陰裂傷<laceration>
		O71\$ その他の産科的外傷
		O720 第3期出血
		O721 その他の分娩直後出血
		O722 遷延および二次性分娩後出血
		O73\$ 遺残胎盤および遺残卵膜, 出血を伴わないもの
		O74\$ 分娩における麻酔合併症
		O75\$ 分娩のその他の合併症, 他に分類されないもの
		O81\$ 鉗子分娩および吸引分娩による単胎分娩
		O82\$ 帝王切開による単胎分娩
		O83\$ その他の介助単胎分娩
O84\$ 多胎分娩		

8

集計2： 治癒率の高い疾患

集計2： 治癒率が高い疾患

平成25年度退院患者調査の対象全症例において治癒率の高い上位7コード
(100症例未満のものを除く)を抽出

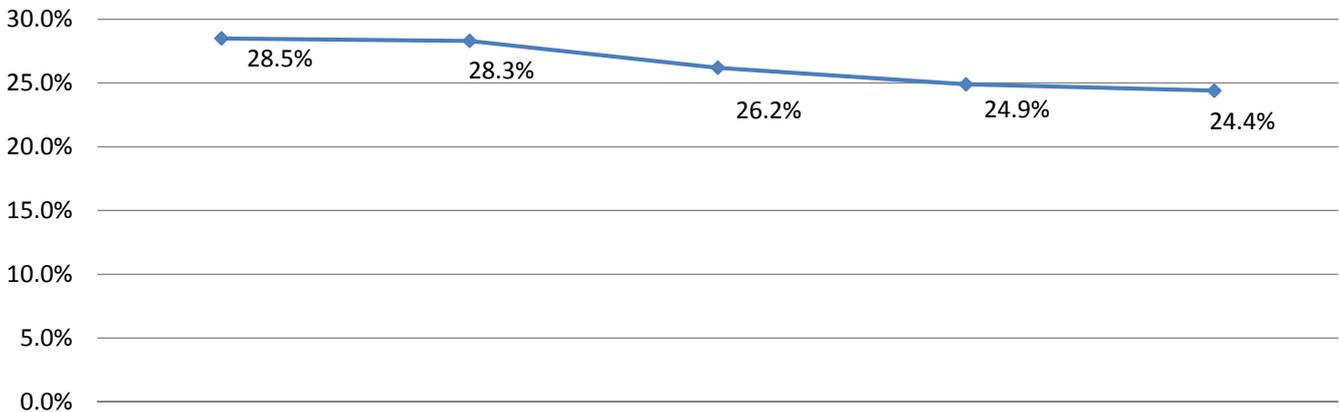


集計対象

DPC6	傷病名
170020	精神作用物質使用による精神および行動の障害
120260	分娩の異常
160500	食道・胃損傷
030270	上気道炎
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害
060200	腸重積
161020	体温異常

9

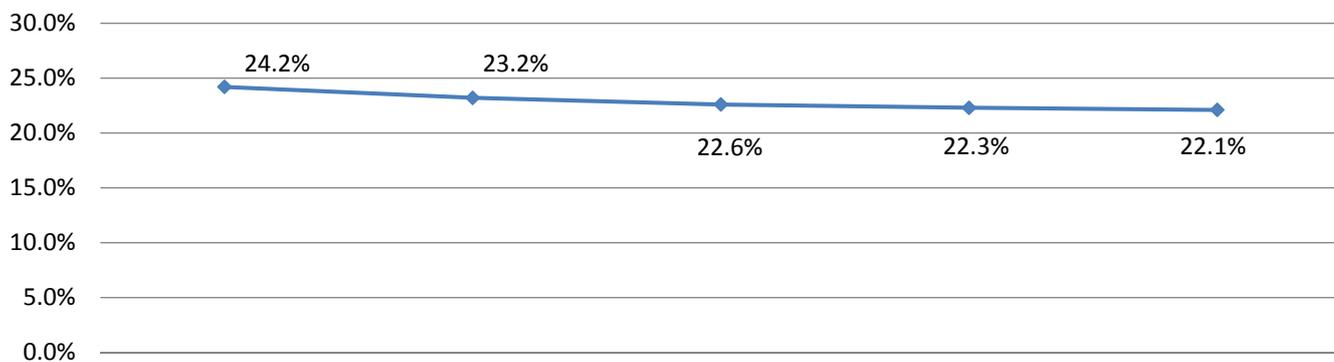
170020 精神作用物質使用による精神および行動の障害



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
170020	精神作用物質使用による精神および行動の障害	F100:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 急性中毒
		F101:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 有害な使用
		F103:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 離脱状態
		F104:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 せん妄を伴う離脱状態
		F105:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 精神病的障害
		F106:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 健忘症候群
		F108:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 その他の精神および行動の障害
		F109:アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害 詳細不明の精神および行動の障害
		F11\$:アヘン類使用による精神および行動の障害
		F12\$:大麻類使用による精神および行動の障害
		F13\$:鎮静薬または催眠薬使用による精神および行動の障害
		F14\$:コカイン使用による精神および行動の障害
		F15\$:カフェインを含むその他の精神刺激薬使用による精神および行動の障害
		F16\$:幻覚薬使用による精神および行動の障害
		F17\$:タバコ使用<喫煙>による精神および行動の障害
		F18\$:揮発性溶剤使用による精神および行動の障害
		F19\$:多剤使用およびその他の精神作用物質使用による精神および行動の障害

10

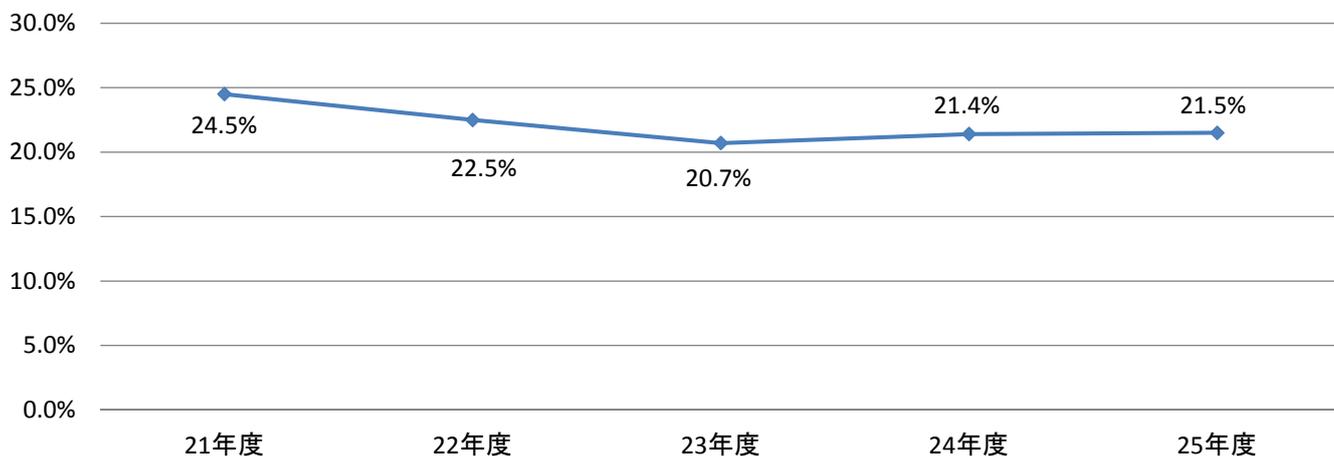
120260 分娩の異常



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
120260	分娩の異常	O61\$:分娩誘発の不成功
		O62\$:娩出力の異常
		O63\$:遷延分娩
		O64\$:胎位異常および胎向異常による分娩停止
		O65\$:母体の骨盤異常による分娩停止
		O66\$:その他の分娩停止
		O67\$:分娩時出血を合併する分娩,他に分類されないもの
		O68\$:胎児ストレス[仮死<ジストレス>]を合併する分娩
		O69\$:臍帯合併症を合併する分娩
		O70\$:分娩における会陰裂傷<laceration>
		O71\$:その他の産科的外傷
		O720:第3期出血
		O721:その他の分娩直後出血
		O722:遷延および二次性分娩後出血
		O73\$:遺残胎盤および遺残卵膜,出血を伴わないもの
		O74\$:分娩における麻酔合併症
		O75\$:分娩のその他の合併症,他に分類されないもの
O81\$:鉗子分娩および吸引分娩による単胎分娩		
O82\$:帝王切開による単胎分娩		
O83\$:その他の介助単胎分娩		

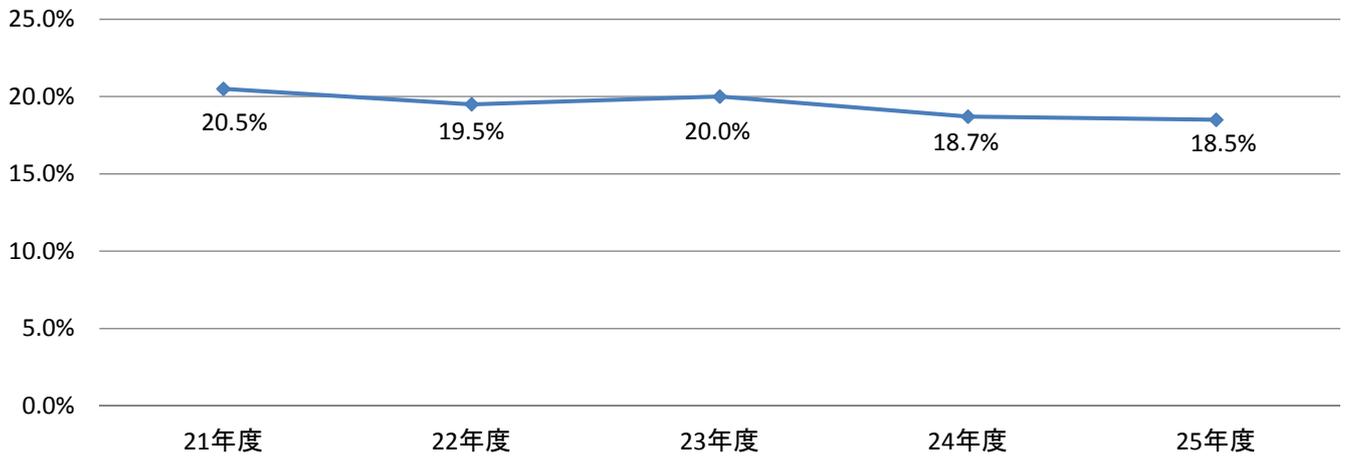
11

160500 食道・胃損傷



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
160500	食道・胃損傷	S363\$:胃損傷
		T181:食道内異物
		T182:胃内異物
		T281:食道の熱傷
		T286:食道の腐食

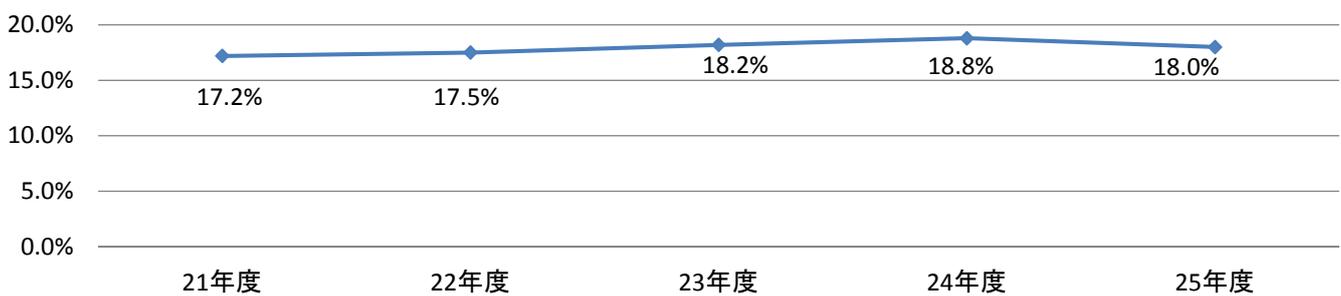
030270 上気道炎



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
030270	上気道炎	B302:ウイルス(性)咽頭結膜炎
		J00:急性鼻咽頭炎[かぜ]<感冒>
		J02\$:急性咽頭炎
		J06\$:多部位および部位不明の急性上気道感染症
		J31\$:慢性鼻炎, 鼻咽頭炎および咽頭炎

13

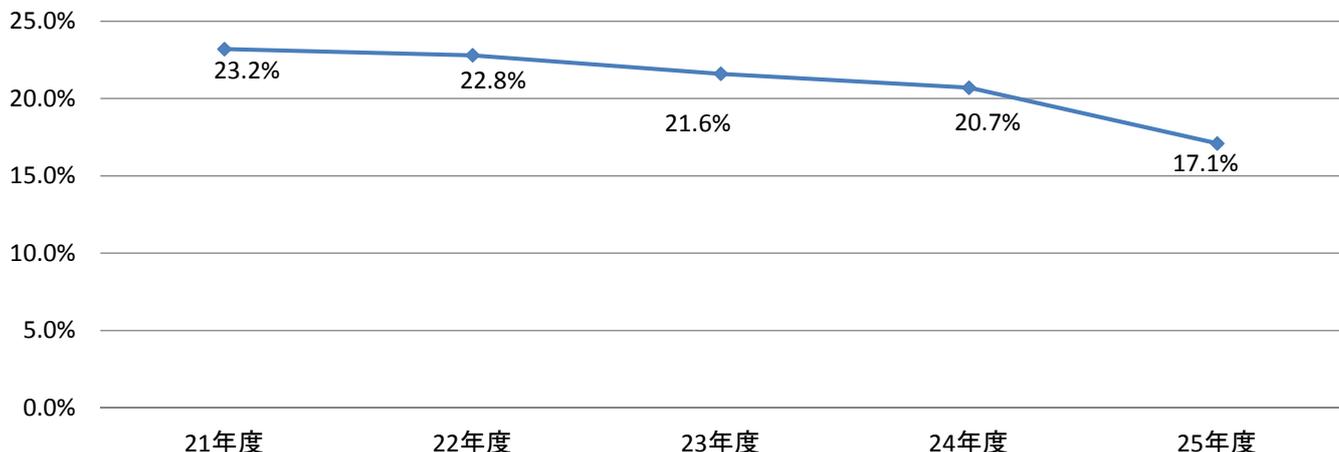
140010 妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害



140010の対応ICD10コード	140010の対応ICD10コード
P00\$:現在の妊娠とは無関係の場合もありうる母体の病態により影響を受けた胎児および新生児	P56\$:溶血性疾患による胎児水腫
P01\$:母体の妊娠合併症により影響を受けた胎児および新生児	P57\$:核黄疸
P02\$:胎盤、臍帯および卵膜の合併症により影響を受けた胎児および新生児	P58\$:その他の多量の溶血による新生児黄疸
P03\$:その他の分娩合併症により影響を受けた胎児および新生児	P590:早産に関連する新生児黄疸
P04\$:胎盤または母乳を介して有害な影響を受けた胎児および新生児	P591:濃縮胆汁症候群
P05\$:胎児発育遅延<成長遅滞>および胎児栄養失調(症)	P592:その他および詳細不明の肝細胞傷害による新生児黄疸
P07\$:妊娠期間短縮および低出産体重に関連する障害、他に分類されないもの	P593:母乳の抱合抑制因子による新生児黄疸
P08\$:遷延妊娠および高出産体重に関連する障害	P598:その他の明示された原因による新生児黄疸
P10\$:出産損傷による頭蓋内裂傷<laceration>および出血	P599:新生児黄疸, 詳細不明
P11\$:中枢神経系のその他の出産損傷	P60:胎児および新生児の播種性血管内凝固
P12\$:頭皮の出産損傷	P61\$:その他の周産期の血液障害
P13\$:骨格の出産損傷	P70\$:胎児および新生児に特異的な一過性糖質代謝障害
P15\$:その他の出産損傷	P71\$:カルシウムおよびマグネシウム代謝の一過性新生児障害
P20\$:子宮内低酸素症	P72\$:その他の一過性新生児内分泌障害
P21\$:出生時仮死	P74\$:その他の一過性新生児電解質障害および代謝障害
P22\$:新生児の呼吸弱く促>迫	P75:胎便<メコニウム>イレウス
P23\$:先天性肺炎	P76\$:新生児のその他の腸閉塞
P24\$:新生児吸引症候群	P77:胎児および新生児のえ<壊>壊>死性腸炎
P25\$:周産期に発生した間質性気腫および関連病態	P780:周産期の腸穿孔
P26\$:周産期に発生した肺出血	P781:その他の新生児腹膜炎
P27\$:周産期に発生した慢性呼吸器疾患	P782:母体血液のえん<嚥>下による新生児吐血およびメレナ
P28\$:周産期に発生したその他の呼吸器病態	P783:新生児非感染性下痢症
P29\$:周産期に発生した心血管障害	P789:周産期の消化器系障害, 詳細不明
P35\$:先天性ウイルス疾患	P80\$:新生児低体温
P36\$:新生児の細菌性敗血症	P81\$:新生児のその他の体温調節機能障害
P37\$:その他の先天性感染症および寄生虫症	P83\$:胎児および新生児に特異的な外皮のその他の病態
P38:軽度出血を伴うまたは伴わない新生児の臍炎	P90:新生児のけいれん<痙攣>
P39\$:周産期に特異的なその他の感染症	P91\$:新生児の脳のその他の機能障害
P50\$:胎児失血	P92\$:新生児の哺乳上の問題
P51\$:新生児の臍出血	P93:胎児および新生児に投与された薬物による反応および中毒
P52\$:胎児および新生児の頭蓋内非外傷性出血	P94\$:新生児の筋緊張障害
P53:胎児および新生児の出血性疾患	P95:原因不明の胎児死亡
P54\$:その他の新生児出血	P96\$:周産期に発生したその他の病態
P55\$:胎児および新生児の溶血性疾患	

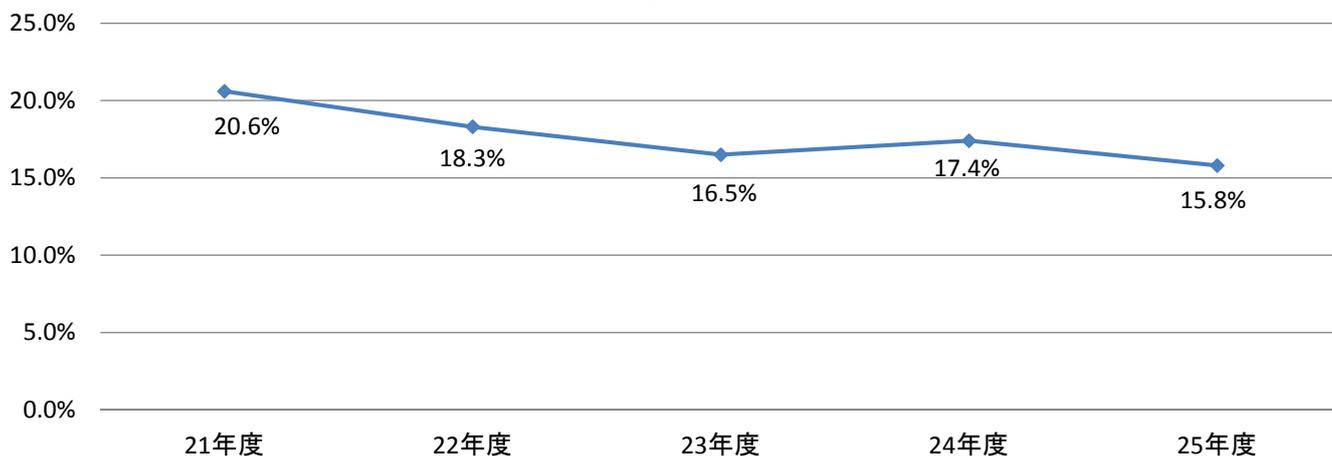
15

060200 腸重積



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
060200	腸重積	K561:腸重積症

161020 体温異常



DPC6	傷病名	対応ICD10コード
161020	体温異常	T67\$:熱および光線の作用
		T68:低体温(症)
		T69\$:低温のその他の作用

17

疾患ごとの治癒率の経年的変化について

- それぞれの症例が「治癒」の定義に該当しているかどうか、また、入力者が明確に定義を理解していたかについても疑問。
⇒ 『治癒』に該当するのは、退院後外来通院の必要のない症例。退院後のフォローアップの外来を受診しても『軽快』となる。

転帰	定義
治癒	退院時に、 退院後に外来通院治療の必要が全くない 、または、それに準ずると判断されたもの。

Q: 退院後に外来にて抜糸が必要だが、「1 治癒」と判定してよいか。

A: 「治癒」とはならない。

(参考)事務連絡平成20年12月26日疑義解釈資料の送付について(その6)より

(問2)「疑義解釈資料の送付について(その5)」(平成20年10月15日事務連絡)問4において、A200入院時医学管理加算の施設基準にある「治癒」の定義として、「退院時に、退院後に外来通院治療の必要が全くない、またはそれに準ずると判断されたもの」とされたが、「準ずると判断されたもの」に以下のものは該当するののか。

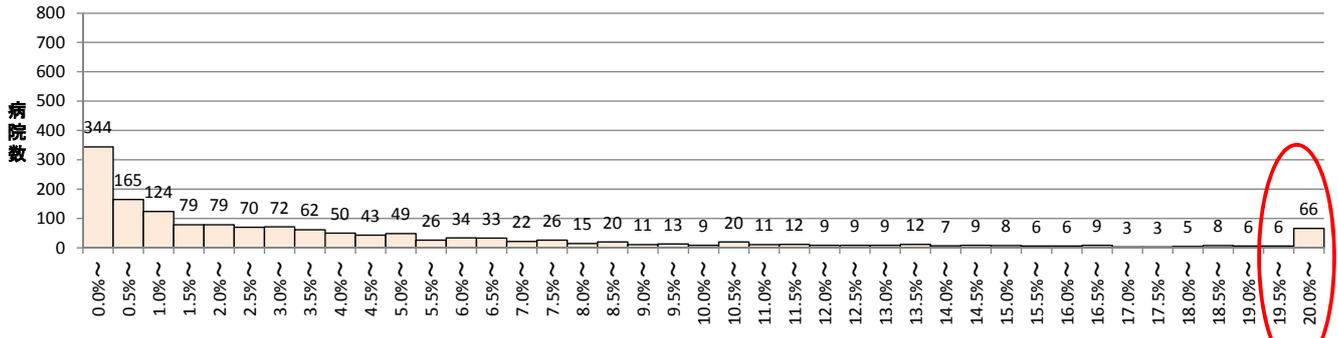
- ・胆石等の手術後、一度だけ受診し、抜糸等も合わせて行う場合
- ・腎結石排石後に定期的にエコー検査を受けるため通院する場合等、定期的に通院して検査等のフォローアップを受ける場合
- ・骨折や脳梗塞後、リハビリのため通院する等、当該疾患に当然付随する処置等のため通院する場合
- ・心筋梗塞後、アスピリン処方のため継続的に通院する場合等、入院の原因となった疾患が原因で必要になった治療のため通院する場合

(答)いずれも該当しない。なお、「準ずると判断されたもの」は基本的にはないと考えている。

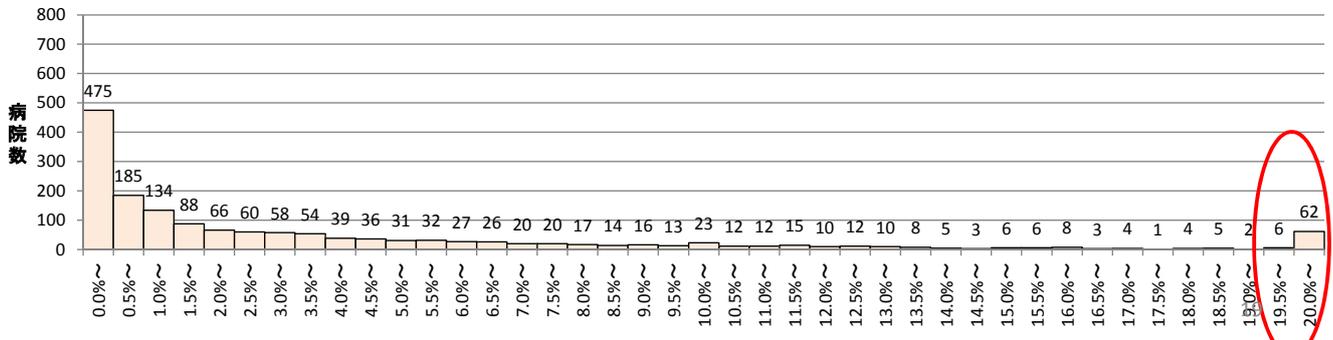
18

集計3： 医療機関別治癒率の分布

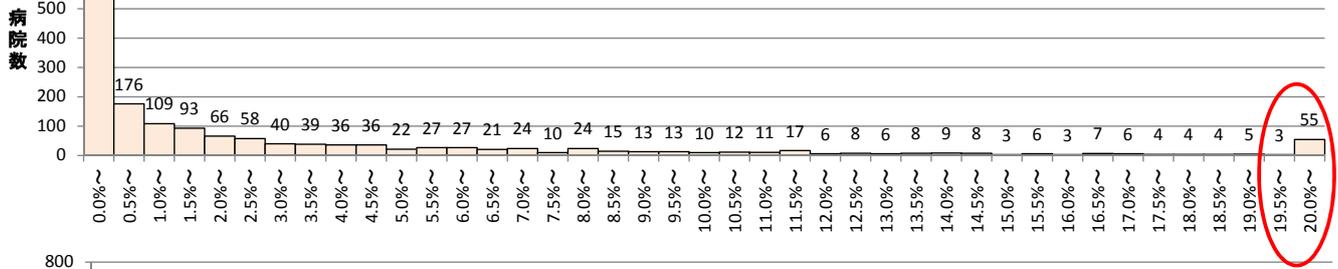
H21治癒率



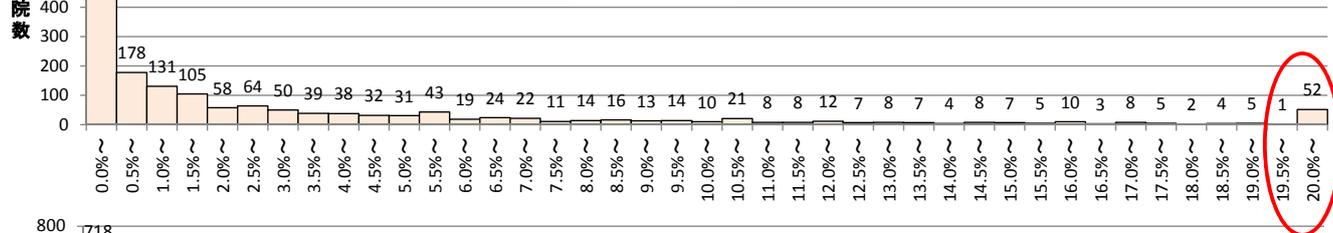
H22治癒率



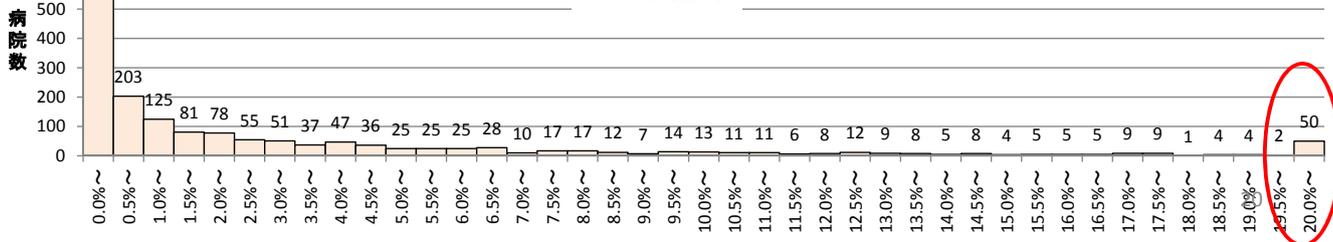
H23治癒率



H24治癒率



H25治癒率



医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較

治癒率の減少した医療機関TOP20

NO	H24年度 治癒割合	H25年度 治癒割合	治癒割合 増減	H24平均在 院日数(治 癒限定なし)	H25平均 在院日数 (治癒限定 なし)	H25-H24平 均在院日 数の変化
1	30.68%	2.02%	-28.67%	10.81	10.89	0.08
2	34.19%	14.71%	-19.49%	15.17	15.43	0.27
3	22.15%	7.55%	-14.60%	13.73	14.95	1.22
4	20.60%	6.25%	-14.35%	12.56	12.46	-0.09
5	18.70%	5.33%	-13.36%	16.17	16.28	0.11
6	23.31%	10.35%	-12.96%	11.80	12.40	0.61
7	13.80%	0.87%	-12.93%	13.88	13.79	-0.09
8	20.87%	8.15%	-12.72%	15.97	16.09	0.11
9	15.87%	3.35%	-12.52%	12.58	12.14	-0.45
10	14.27%	1.90%	-12.37%	13.97	15.10	1.13
11	27.60%	15.72%	-11.88%	12.51	13.65	1.14
12	22.99%	11.45%	-11.54%	14.82	15.83	1.01
13	18.22%	7.36%	-10.86%	14.62	13.27	-1.35
14	13.70%	2.84%	-10.86%	14.80	14.98	0.18
15	11.04%	0.36%	-10.68%	11.14	14.07	2.92
16	13.63%	3.33%	-10.30%	17.48	18.07	0.59
17	17.81%	7.80%	-10.01%	13.49	13.70	0.22
18	27.53%	17.53%	-10.00%	14.09	15.53	1.44
19	14.66%	5.36%	-9.30%	16.13	15.96	-0.17
20	12.87%	3.80%	-9.08%	14.75	14.23	-0.52

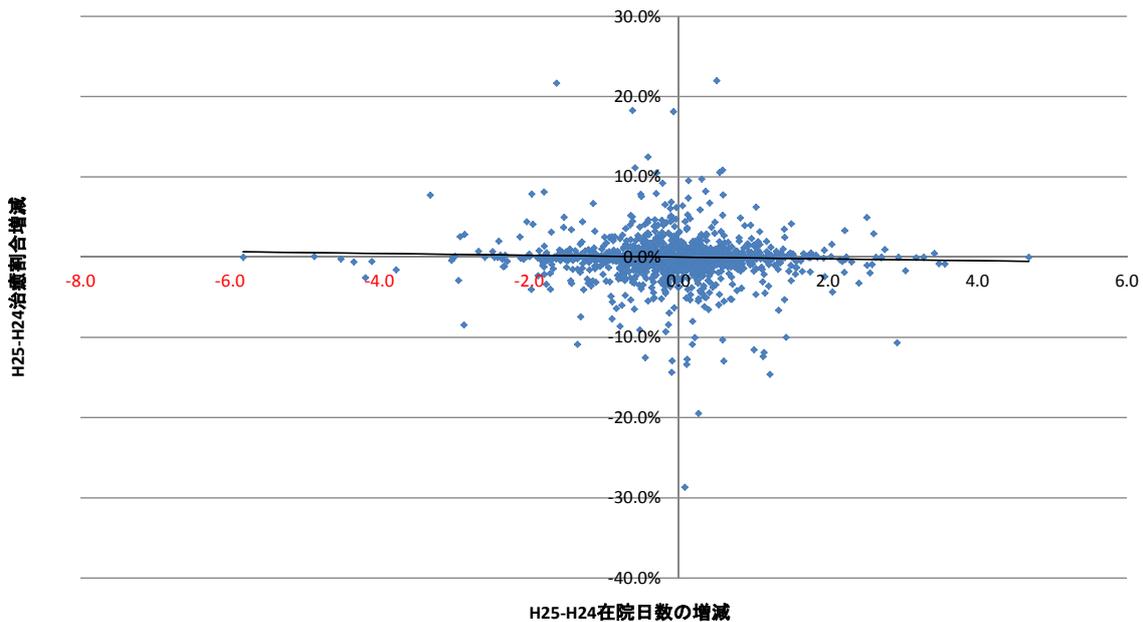
治癒率の増加した医療機関TOP20

NO	H24年度 治癒割合	H25年度 治癒割合	治癒割合 増減	H24平均在 院日数(治 癒限定なし)	H25平均 在院日数 (治癒限定 なし)	H25-H24平 均在院日 数の変化
1	12.43%	34.44%	22.00%	13.32	13.83	0.51
2	9.91%	31.60%	21.69%	13.38	11.74	-1.63
3	6.72%	25.01%	18.29%	12.62	12.01	-0.61
4	3.60%	21.74%	18.13%	13.47	13.40	-0.07
5	6.53%	19.01%	12.48%	16.91	16.50	-0.41
6	20.64%	31.76%	11.12%	12.55	11.97	-0.58
7	6.46%	17.31%	10.85%	11.51	12.10	0.59
8	4.36%	14.92%	10.56%	13.03	13.58	0.55
9	2.52%	13.04%	10.52%	13.69	13.40	-0.29
10	9.41%	19.14%	9.72%	13.89	14.20	0.31
11	9.98%	19.50%	9.52%	13.14	13.27	0.13
12	12.84%	22.07%	9.23%	12.27	12.06	-0.21
13	14.27%	22.48%	8.21%	12.87	13.23	0.36
14	1.78%	9.89%	8.11%	12.56	10.76	-1.80
15	10.92%	18.84%	7.93%	14.62	14.32	-0.30
16	3.48%	11.35%	7.87%	13.07	11.11	-1.96
17	11.79%	19.64%	7.85%	10.22	9.72	-0.50
18	7.25%	15.00%	7.75%	16.91	17.50	0.60
19	3.86%	11.58%	7.72%	19.79	16.47	-3.32
20	0.03%	7.59%	7.56%	7.94	7.44	-0.50

21

医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較

H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



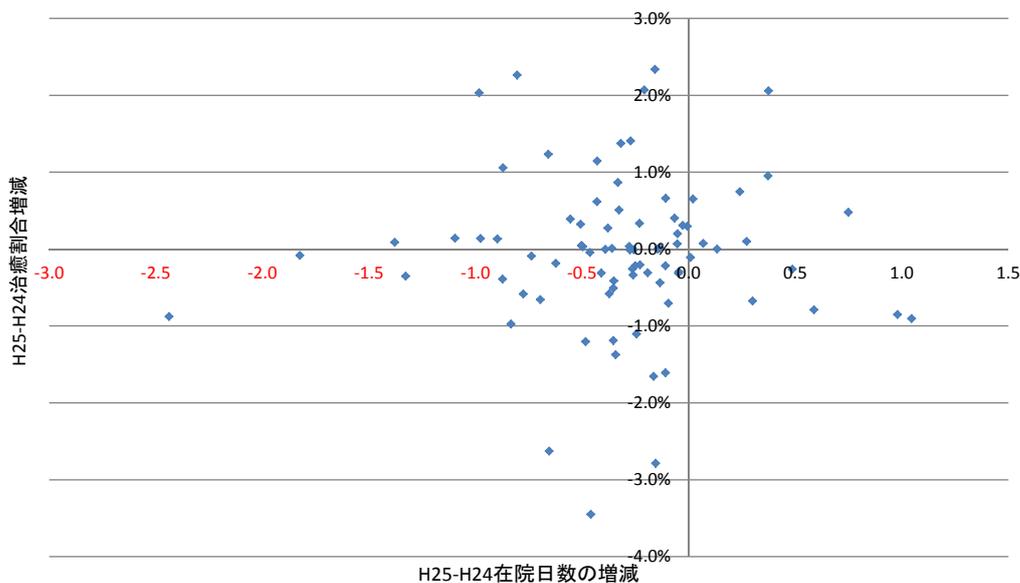
Pearsonの相関係数 = -0.048 (有意確率 0.042)

➡ 治癒率の変化と平均在院日数の変化にはほとんど相関関係はない。

22

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較1

【平成15年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



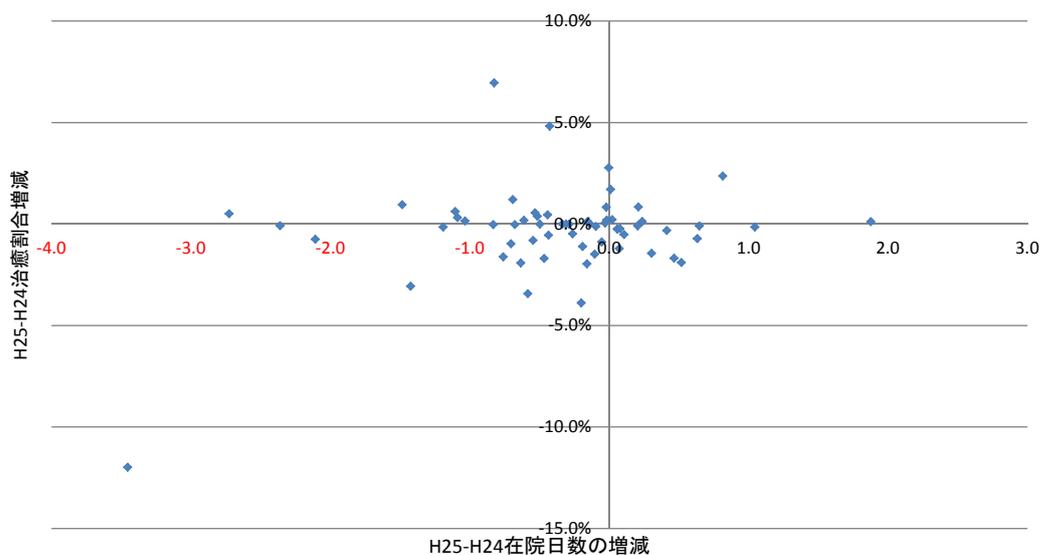
Pearsonの相関係数 = 0.007 (有意確率 0.950)

➡ 相関関係はない

23

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較2

【平成16年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



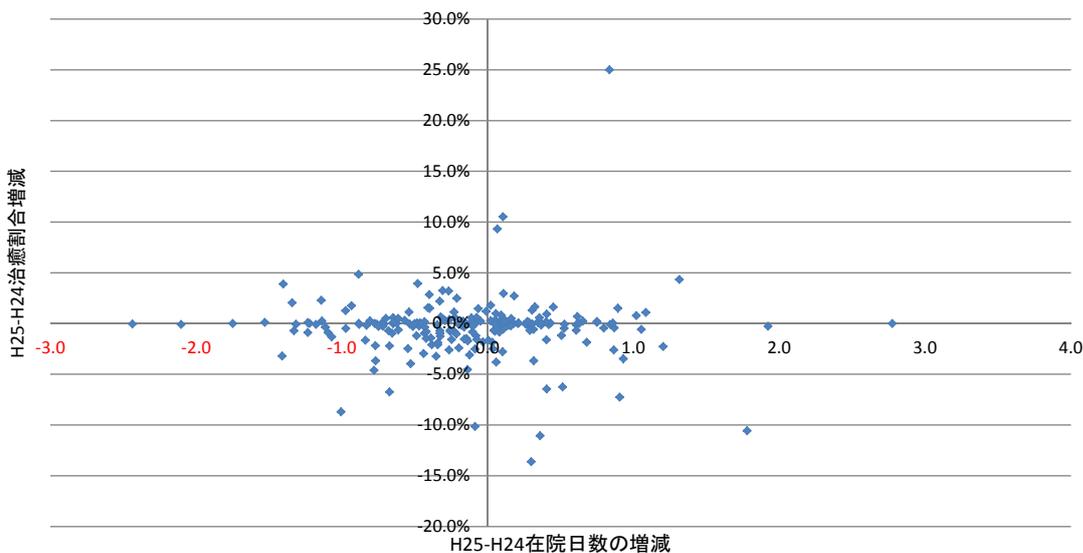
Pearsonの相関係数 = 0.302 (有意確率 0.018)

➡ 弱い相関関係

24

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較3

【平成18年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



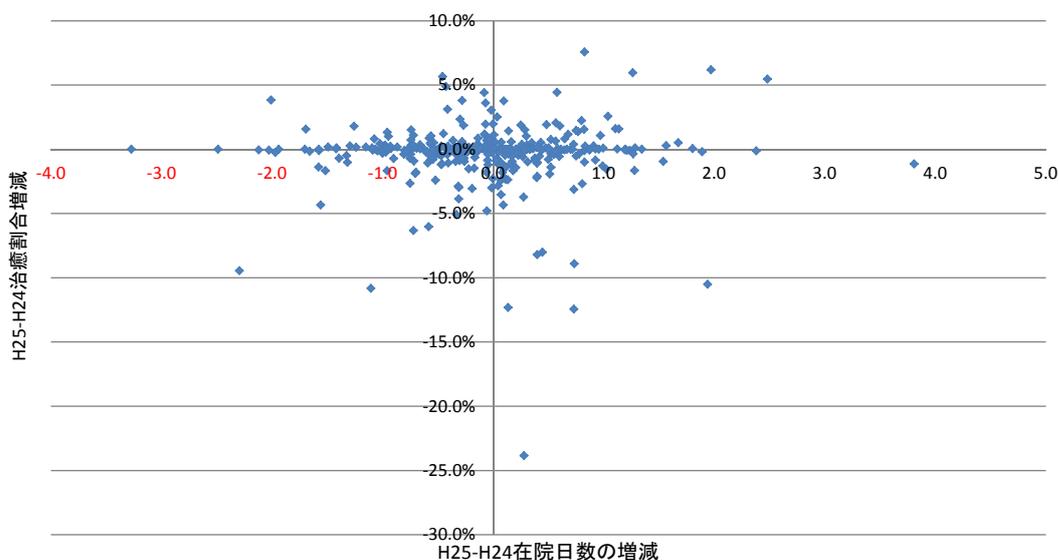
Pearsonの相関係数 = -0.015 (有意確率 0.828)

➡ 相関関係なし

25

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較4

【平成20年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



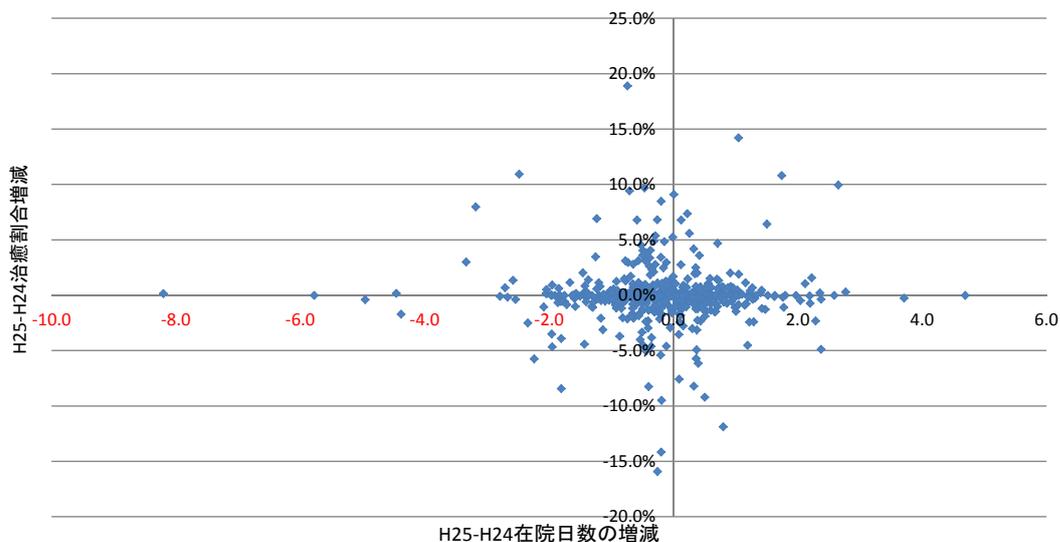
Pearsonの相関係数 = 0.031 (有意確率 0.561)

➡ 相関関係なし

26

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較5

【平成21年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



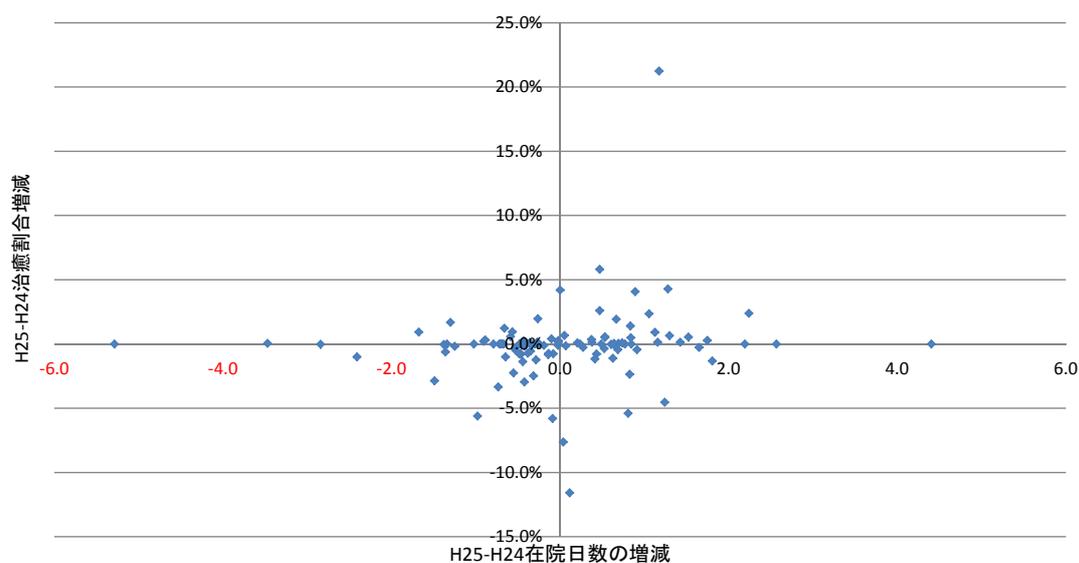
Pearsonの相関係数 = 0.000 (有意確率 0.997)

➡ 相関関係なし

27

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較6

【平成22年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



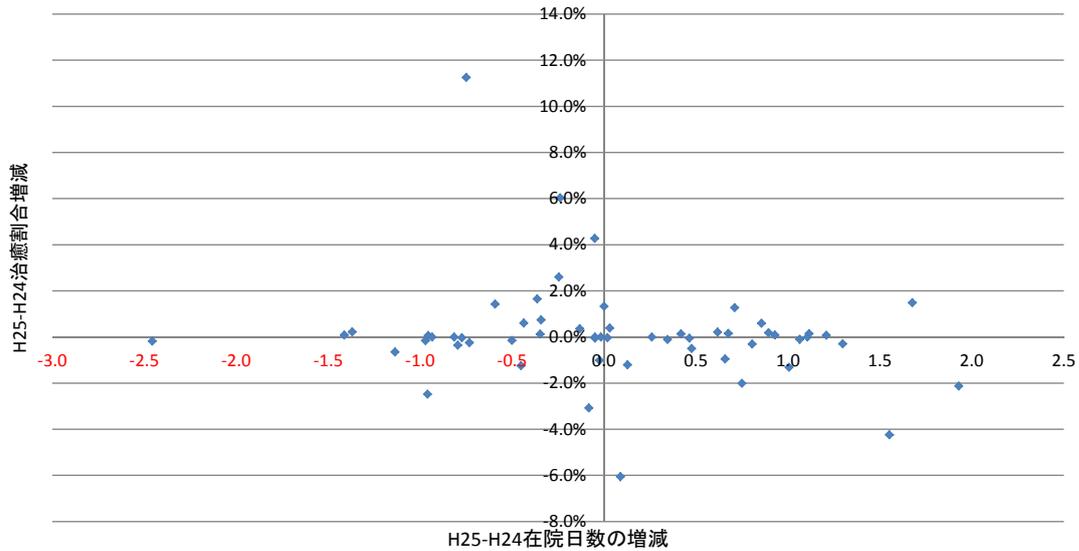
Pearsonの相関係数 = 0.136 (有意確率 0.162)

➡ 相関関係なし

28

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較7

【平成23年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



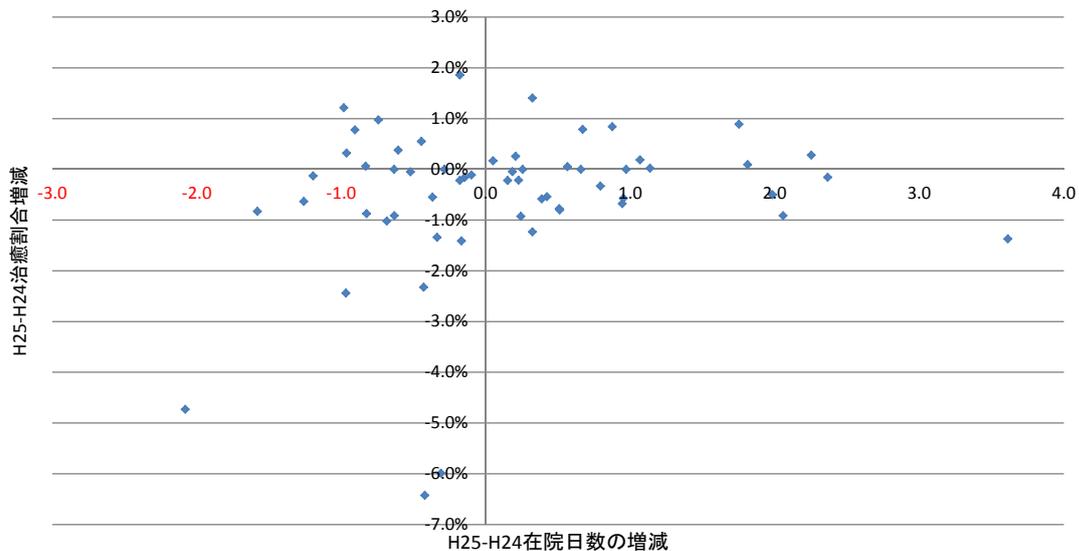
Pearsonの相関係数 = -0.179 (有意確率 0.182)

➡ 相関関係なし

29

参加年度別医療機関ごとの治癒率と平均在院日数の比較8

【平成24年度DPC参加病院】
H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減



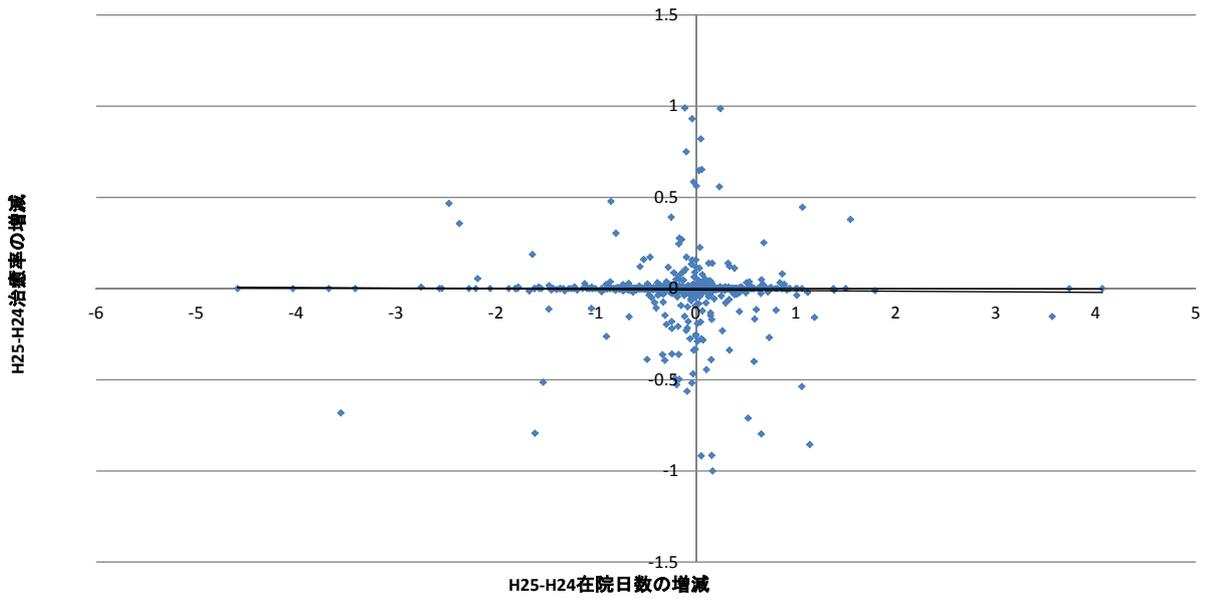
Pearsonの相関係数 = 0.187 (有意確率 0.159)

➡ 相関関係なし

30

医療機関ごとの020110(白内障、水晶体の疾患) の治癒率と平均在院日数の比較

H24年度とH25年度での
治癒割合増減と平均在院日数の増減(退院10件以上)



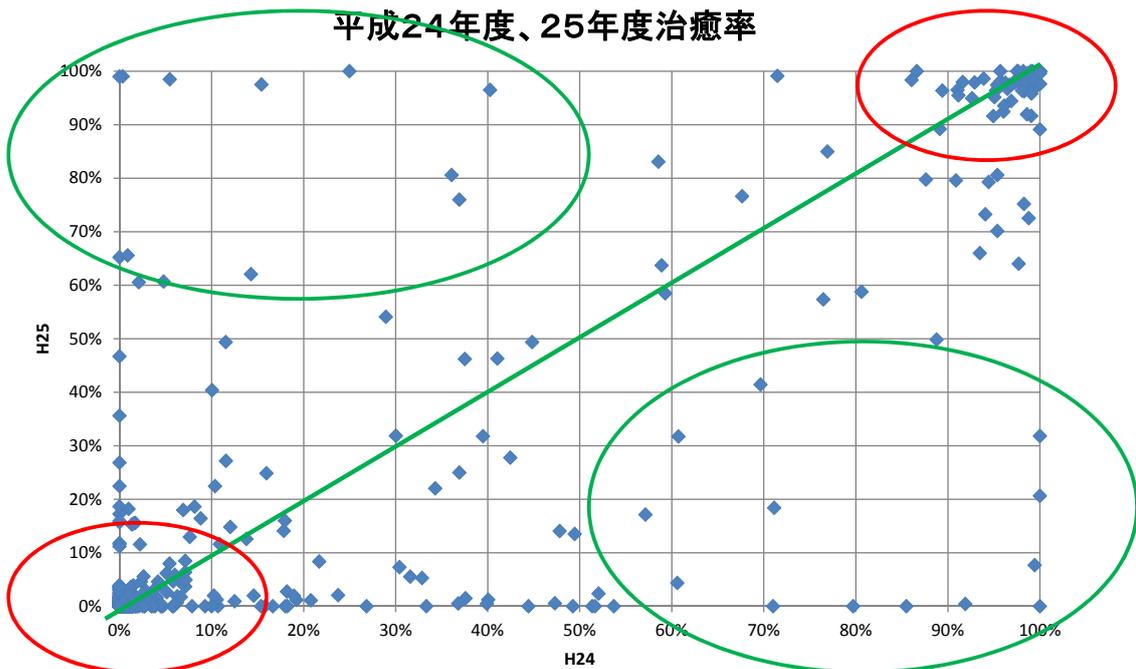
Pearsonの相関係数 = -0.014 (有意確率 0.645)



相関関係はない。

31

医療機関ごとの020110(白内障、水晶体の疾患) の治癒率の比較



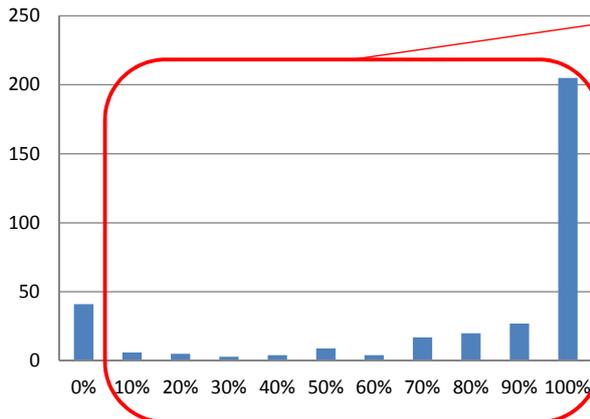
32

医療機関ごとの『治癒』と外来の関係

集計条件

治癒率の変化への影響が最も大きかった020110(白内障、水晶体の疾患)について、「治癒」をつけた患者の、退院日直近の外来受診(退院後28日まで)において、眼科的検査(D255～D282)を行っている患者の割合を医療機関ごとに集計した。

『治癒』の患者の外来受診率
(医療機関ごと)



本来であれば『治癒』の定義には該当しないと考えられる。医療機関において、『治癒』の定義が明確でない可能性がある。

治癒件数	『治癒』のうち眼科受診した件数	割合
22,323件	16,187件	73%

33

医療機関ごとの分布の変化に関して

- 治癒率が0.5%以下の医療機関の割合は、経年的に増加している。
- 一方で、治癒率が20%を超える医療機関も経年的に存在し、入力に関して、医療機関ごとにバラツキが存在していると考えられる。
(総合病院であり、治癒率が35%を超えている医療機関も存在。)
- 治癒率の変化と平均在院日数の変化にはほとんど相関関係はなかった。
- 入力のバラツキが比較的少ないと考えられる、初期から参加していた医療機関においても、治癒率の変化と平均在院日数の変化にほとんど相関関係は見られなかった。
- 治療がある程度一般化されていると考えられる『白内障・水晶体の疾患』であっても、医療機関ごとの治癒率が全く異なっており、年度ごとに全く異なった治癒率の医療機関も存在した。
- 『治癒』の定義自体が周知されていない可能性が示唆された。

34

集計4： MDCごとの治癒割合の分布（平成25年度）

D-2別紙2 参照

35

MDCごとの分布に関して

- 各MDC上位の分布に関してはほぼ経年変化は見られない。
- 一方で「遺伝性運動失調症」「染色体異常」等の、「治癒」の定義に該当しない症例が含まれている。

36

今後の「治癒」に関する集計に関して

- 前述の治癒率に関するDPCデータによる集計からは、治癒率の減少に関して原因は特定できなかった。
 - 集計結果から、「治癒」の判断基準に関して、医療機関によるバラつきや、診療科ごとのバラつきが認められた。
- ⇒ 各医療機関における「治癒」の判断のバラツキの原因に関して調査する必要があるのではないか。
- また、バラツキの原因が定義に関する理解不足によるものであった場合は、判断基準が統一されるよう治癒の定義について周知徹底を行うこととしてはどうか。
- (なお、その際には次回調査以降の集計に関しては、前年度までとの連続性について注意が必要である。)